

宮城県林業普及活動情報

2010.4月号 No.23

もくじ

各地の林業普及活動情報

P 2 ~ 10

- 「県民参加の森づくり支援」 (仙台地方振興事務所)
- 「市町村と連携した松くい虫被害対策の推進」 (仙台地方振興事務所)
- 「マイタケ空調施設栽培栽培技術指導」 (仙台地方振興事務所)
- 「造林未済地解消へ一歩踏み出す！」 (北部地方振興事務所)
- 「『豊かな森づくりサポートチラシ』を作成！」 (北部地方振興事務所)
- 「新たなグリーンツーリズムへの展開へ！」 (北部地方振興事務所)
- 「『有壁共有林野保存組合』の総会で間伐事業を採択」 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「今年もムラサキシメジの菌輪確認！」 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「『栗駒高原森林まつり』～体験コーナーに長い列～」 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「陸上自衛隊仙台駐屯地『桜まつり』で農事組合法人水鳥がシイタケ販売！」 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「震災復旧『湖畔のみせ旬彩』開店にリーフレットをそえて！」 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「栗原市が森林を守り育てる人向けに市単独の補助制度を創設！」 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「石巻地区森林組合が『森の植木市』を開催～県産スギ材オリジナル家具をPR～」 (東部地方振興事務所)
- 「第6回金華山ボランティア植樹～よみがえれ緑の島金華山～」 (東部地方振興事務所)
- 「『石巻地方松くい虫防除推進会』が開催されました」 (東部地方振興事務所)
- 「低コスト造林試験地の設定」 (東部地方振興事務所)
- 「『こーぷの森』で植林体験」 (気仙沼地方振興事務所)
- 「林業就業支援講習への支援」 (林業技術総合センター)
- 「海外の伐木技術研修を支援」 (林業技術総合センター)
- 「造林未済地解消プロジェクトの開催」 (林業技術総合センター)

「県民参加の森づくり支援」

仙台地方振興事務所

豊かな自然環境と生活環境を維持する森林の整備・保全を推進するため、4月14日（火）、利府町において県内の若手神職の方々と構成する協議会が行った「森づくり活動」への支援を行いました。

今回は、協議会の設立60周年の記念事業として、1月に開催された「森林・林業に関する研修会」と関連して「植樹祭」が行われ、現地でヒノキ苗木の植栽等について指導を行うとともに、植栽後の下刈り等の継続した保育作業の必要性や、健全な森林育成のための間伐実施などについて説明を行いました。



ヒノキ植栽の状況

「市町村と連携した松くい虫被害対策の推進」

仙台地方振興事務所

4月20日（火）、亶理町における松くい虫被害の予防として、県が実施する無人ヘリコプターによる薬剤散布の必要性と効率性を理解いただくとともに、安全に散布が実施できるよう散布区域の地元住民を対象に説明を行いました。

説明会には、亶理町職員2名と地元住民7名が参加し、松くい虫被害対策への理解と協力を得ることができました。



地元説明の状況

「マイタケ空調施設栽培栽培技術指導」

仙台地方振興事務所

大和町内のマイタケの空調施設栽培に取り組んでいる生産者から、発生不良で生産量が安定しないとの相談を受けて、4月26日（月）に現地指導を行いました。

当日は、林業技術総合センターの研究者及び農業振興部の普及員と連携し現地調査を行った結果、種菌に原因があることも考えられるので、登録種菌を使用することや作業する部屋をきれいにするなど、基本的な作業の改善を指導して、今後の経過を観察することとしています。



現地指導の状況

造林未済地解消へ一歩踏み出す！
北部地方振興事務所

宮城県農林種苗農業協同組合の要請を受け、加美町宮崎地内に設定することとなった「低コスト造林試験地」について、去る4月22日（木）にスギのコンテナ苗や2年生大苗など苗木の種類や密度を替えて植栽を行いました。植栽後は5年間の調査期間において、苗木の成長を観測するほか、保育作業についてもコスト削減の効果を検証する予定であり、この成果が造林未済地の解消につながることを期待したい。



試験地での植栽の様子
 （加美町宮崎地内：4月22日）



「豊かな森づくりサポートチラシ」を作成！
北部地方振興事務所

森林整備関係事業の多様化と事業種の複雑化に伴い、利用者側の理解が浸透せず、補助事業が十分に活用されていない状況にあります。そこで、事業活用PRチラシを作成し、取りわけ森林所有者の自立的森林整備を促すため、巡回指導の際のツールとして活用することとしました。「実行しよう！損をしないおトクな山づくり」を合い言葉に、鋭意普及活動に専念し参ります。



「豊かな森づくりサポートチラシ」

新たなグリーンツーリズムへの展開へ！
北部地方振興事務所

4月15日（木）、NPO法人鬼首山学校が今年度実施するグリーンツーリズム等の活動に関する打合せを農業振興部と共同で行いました。

林業分野では、新たにワサビ栽培やスギの間伐材を用いた木炭製造などに取り組みたいとの要望が出されました。

今後も組織の垣根を越えながら、山学校の活動支援を行っていく予定です。

こだわりのワサビ職人が手塩にかけた見事なワサビ田（ワサビ栽培体験候補地）



ちょうど花が咲いていました

「有壁共有林野保存組合」の総会で間伐事業を採択

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

4月1日(木),「有壁共有林野保存組合」(栗原市金成地区)の総会で森林整備加速化・林業再生事業を用いた間伐計画が議決されました。

当日は,栗原地域事務所から事業の概要と実施に当たって注意すべき点が説明され,栗駒高原森林組合の担当者から本事業の子細について熱のこもった説明が行われました。

今回議決された間伐は3年前から検討が行われてきたものでした。森林を適正に管理したいという当日出席した保存組員 42名の思いが,平成21年度から始まった本事業とうまく合致したことで,栗原地域の森林整備がまた一歩前進することになりました。

今後も,このような施業の集約化に,県は積極的に協力していきます。



説明に聞き入る保存組員

今年もムラサキシメジの菌輪確認!

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

4月6日(火),平成20年度に菌床の埋め込みを行った金成地区と平成21年度に菌床の埋め込みを行った花山地区の栽培試験地で,ムラサキシメジの菌輪(輪になった菌糸の帯)が順調に生育していることが確認されました。計測を行ったところ菌輪の広がるスピードは105cm~125cm/年でした。

ムラサキシメジの野外栽培では,2年目以降の収穫があまり期待できないことが課題になっていますが,栗原地域事務所では,2年目のマウンドに落ち葉を追加補充した場合の発生量についても試験を実施し,好成績を得ることができました。

今後もムラサキシメジ菌床の販路拡大に協力する一方,育成菌輪に落ち葉を補充し収穫を行う恒常経営に向けた調査を継続し,1年目~3年目の発生位置や発生量等の調査を実施し,連年収穫に向けた実証への取り組みを推し進めます。生産者の方への情報提供を図ることにより,またムラサキシメジの恒常経営化に向けた取り組みを推し進めていくこととしています。



順調に育つ3年目の菌輪



「いぐね」の活用に向け針葉樹下の2年目の菌輪を計測

**「栗駒高原森林まつり」
～ 体験コーナーに長い列 ～
北部地方振興事務所 栗原地域事務所**

4月10日(土)、栗駒高原森林組合が主催する恒例の「栗駒高原森林まつり」が、同組合事務所前の広場で開催されました。

毎年、4月の第2土曜日に開催しており、今年で第8回目となります。

当日は前日までの荒天と取って代わり、晴天に恵まれ、900人を超える来場者(主催者発表)があり、緑化木や、きのこの原木、木工品、林業用資器材等を買求める人たちで、会場は終日賑わいました。

特に、親子木工教室(無料:先着50名)や、ホダ木原木植菌体験コーナー、「めぐみの森くりはら」による移動式ドラム缶による本格的な炭焼きピザ作り体験コーナーは人気があり、順番待ちに長い列ができました。

また、午前と午後の2回、会場内でチェーンソーアートの実演と即売(オークション)が行われ森林まつりを盛り上げておりました。

栗原地域事務所からはパネルを掲示し、来場者の方々に森林のはたらきやキノコの栽培方法をPRしました。



盛況だった親子木工教室



来場者による植菌体験コーナー

**陸上自衛隊仙台駐屯地「桜まつり」で
農事組合法人水鳥がシイタケ販売!
北部地方振興事務所 栗原地域事務所**

4月10日(土)、陸上自衛隊仙台駐屯地が主催する「桜まつり」が、苦竹の仙台駐屯地で開催されました。

駐屯地創設52周年記念行事となる開催に、栗原市から農事組合法人水鳥が出展し、シイタケを販売いたしました。

当日は晴天に恵まれ、18,000人(主催者発表)の来場者があり、各種イベントや出展に会場は終日賑わいました。

人気のネコバス・ミニ新幹線やヘリコプター搭乗体験にまけず、地産地消コーナーも大人気で、県産食品のよさが、みなさんに浸透しはじめてきたことが実感される催しとなりました。



戦車に興じる子供達



シイタケの売れ行き好評

震災復旧「湖畔のみせ旬彩」開店にリーフレットをそえて！

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

4月12日(月),平成20年の岩手・宮城内陸地震以来,休業を余儀なくされていた,新林業構造改善事業により花山湖湖畔に建築された展示販売施設の「湖畔のみせ旬彩」が,4月24日(土)に営業を再開することになりました。

湖畔のみせ旬彩では地場産品の販売・木製品・キノコや山菜といった特産林産物の販売のほか食事をとることができ,周辺の情報提供の拠点にもなっています。

栗原地域事務所では開店に先駆け,より多くの皆様に旬彩を御ご利用いただけるよう,旬彩の近隣で,「前九年の役で土着の英雄として活躍した安部貞任」の居館跡とされる花山城(華山城,湍牛館とも)跡へのルートを作成したリーフレットを作成しました。

このリーフレットで近くの遺跡へのルートを知り,自然観察会や小中学校の学校教育等に活用が図られ,より多くの方々にリピータとなっただけでなく,湖畔のみせ旬彩の利用に一層の拍車がかかることを期待しています。



狩野組合長へリーフレット引き渡し



栗原市が森林を守り育てる人向けに市単独の補助制度を創設！

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

栗原市では,森林を守り育てる人向けに市単独の補助制度が創設され,4月26日(月)に事業説明会が開催されました。説明会には栗駒高原森林組合と林業事業者の方々18名が参加し,熱心に市からの説明に聞き入っていました。

栗原地域事務所では,地球温暖化防止のために,森林で今もっとも必要とされる間伐を後押しするこの事業を応援しています。

補助内容は,造林から間伐までの各行為に10,000円/ha以内~200,000円/ha以内。間伐の団地化に20,000円/ha以内,搬出路の開設に500円/m以内,木材の搬出に1,000円/m³以内となっています。

なお,詳細は栗原市産業経済部農林振興課林業振興係(TEL0228-22-1135)にお問い合わせ下さい。



市の説明に聞き入る事業者の方々

**石巻地区森林組合が
「森の植木市」を開催
～県産スギ材オリジナル家具をPR～**
東部地方振興事務所

石巻地区森林組合で毎年恒例の「森の植木市」が開催されました。植木市では、毎年、植木や鉢花の販売をはじめ、シイタケ原木の植菌体験などが行われ、来訪者にも好評です。

今年の植木市では、県産スギ材オリジナル家具の展示・販売も行われました。このオリジナル家具は、地域材の利用拡大を図ろうと林業普及指導員がコーディネートして、木材の提供を森林組合が、製作は地元の家具職人が担当して開発したものです。早速、テレビ台を購入された方もいて、会場を訪れた人たちからは、スギの肌触りが良いなどの感想が多く聞かれました。今後も販売促進を支援し、地域材の良さをPRしていく予定です。

2日間にわたり好天に恵まれ、多数の来場者があり、普段、森林組合にあまり馴染みのない一般市民も大きな苗木やシイタケ原木などを抱えて、山の恵みを満喫している様子でした。

開催日 平成22年4月10日(土),11日(日)
場 所 石巻地区森林組合



森林組合の駐車場で植木や鉢花など販売



県産スギ材オリジナル家具の展示

**第6回金華山ボランティア植樹
～よみがえれ緑の島金華山～**
東部地方振興事務所

4月24日(土)、金華山国有林内でボランティア植樹祭が開催されました。(NPO法人森林との共生を考える会、宮城北部森林管理署等の主催)当日は、県内各地からボランティア約170名が参加して、気象災害や松くい虫被害により荒廃した森林を復元するため、クロマツ2,000本を植樹しました。当事務所からは林業普及指導員が参加し、一般ボランティアとともに植栽作業を行いながら、参加者に植樹の指導や補助を行いました。植樹祭は今回で6回目となり、延べ850名のボランティアが参加し、植樹本数も1万本を超えるなど、金華山の森林の復旧は着実に進んでいます。当事務所では、今後も植樹祭への協力を通じて多くの方に森林の保全等の重要性について理解していただけるよう関係機関と協力していくことにしています。

主催：NPO法人森林との共生を考える会、
宮城北部森林管理署、宮城県、石巻市
後援：宮城北部流域森林・林業活性化センター
みやぎ林業活性化基金、宮城県森林組合連合会、
石巻地区森林組合、金華山地域保護活用協議会、
牡鹿漁業協同組合、株式会社ローソン



植樹風景(植樹には子供達も参加しています)



たくさんの人々が復興を願い
植樹に参加しました

「石巻地方松くい虫防除推進会」が開催されました。

東部地方振興事務所

4月28日(水)に石巻地区森林組合森林研修センターで、石巻地方松くい虫防除推進会(事務局:石巻地区森林組合)の総会が開催されました。

同推進会は森林所有者等で構成され、石巻地方の松林を松くい虫被害から防除することを目的として、昭和57年に設立されて以来、県や市町が行う防除対策への協力として被害木の空中探査、国等関係公所への要望、抵抗性マツの植栽などをはじめ、数多くの防除に係る活動を行って来ております。

当事務所では、同推進会の顧問として参加しました。

総会では、委員から県産抵抗性マツの供給の見通しや、シカの森林被害対策などについて質問が出され、各質問に対する県の取り組み状況を説明し、理解を頂きました。

同推進会の活動は、石巻地方の松を松くい虫被害から守る上で、とても有意義なものとなっており、当事務所としても今後も連携して石巻地方の松くい虫防除に努めていきたいと思っております。



会長(鈴木石巻地区森林組合組合長)



たくさんの森林所有者が松くい虫被害に関心をもって推進会に参加しています。

「低コスト造林試験地の設定」

東部地方振興事務所

伐採跡地面積が増加している昨今、造林費用の低コスト化は重要な課題となっています。

そしてその課題解決のカギとなる可能性を秘めているのが、「コンテナ苗」と「2年生大苗」であり、生長量の早さに基づく疎植と下刈回数低減を組み合わせることで、造林費用の低コスト化が期待されています。

今回、東松島市大塩地区に約0.5haの試験施行地を設定し、4月26日(月)に植栽試験を実施しました。植栽したのは、コンテナ苗200本、2年生大苗100本、3年生通常苗120本の計420本で、石巻地区森林組合の協力を得ながら実施しました。

4月30日(金)には、植え付け後の苗高等を計測し、今後、それぞれの生長量を数年にわたってモニタリングしていくこととしています。

また、疎植区域については、筋刈り、坪刈りの有用性についても検証していくこととしています。



作業班員が手にしているのが「宮城式植付器」。コンテナ苗の手早い植え付けが可能となります。



植栽した苗木については
1本1本苗高と根本径を計測。

「こーぶの森」で植林体験
 気仙沼地方振興事務所農林振興部

4月24日(土)、南三陸町内の伐採跡地にみやぎ生協の会員や従業員など約80人が集まり、ヤマボウシ、コナラ、エンジュなど11種類の広葉樹を植林しました。

今年度の植林は1ヘクタール、5千本を予定しており、今回はそのうち5百本が植えられました。

当日は、主催者であるみやぎ生協のほか、参加企業6社、南三陸町や森林組合、漁協の方々も参加されました。

南三陸町では、伐採跡地対策として、企業への分収を検討・実践しており、今回はその一環として行われたものです。

参加者からは「また来年も来てみたい」「山づくりの大変さが分かった」との感想が寄せられ、大変有意義な一日となりました。



南三陸町内のスギ伐跡地に広葉樹を植林

「林業就業支援講習への支援」
 林業技術総合センター普及指導チーム

4月13日(火)に林業技術総合センターで行われた林業労働力確保支援センター主催による「林業就業支援講習」を支援しました。

講習は、林業への就業希望者を対象に林業の基礎的な知識・技術の習得を図るために行われたものです。

当日は、36名が参加し、フォワーダによる安全な作業等について研修が行われました。

研修生は、林業への就業を目指して、真剣に研修へ取り組んでいました。



フォワーダの操作実習

「海外の伐木技術研修を支援」
 林業技術総合センター普及指導チーム

4月15日(木)に林業技術総合センターで行われた株式会社スチール主催による「フォレストリーフェスティバル」を支援しました。

「フォレストリーフェスティバル」ではニュージーランドの指導者であるウェイン・ジョーンズ氏が、様々な伐木の伐倒技術を実演しながら紹介しました。

当日は、森林組合職員や林業会社社員等約200名の参加があり、海外の伐木技術に触れる貴重な機会となりました。



講師のウェイン・ジョーンズ氏の紹介

傾き木の重心を移動して反対方向へ倒す技術の実演



**「造林未済地解消プロジェクトの開催」
林業技術総合センター普及指導チーム**

4月22日(木)に造林未済地解消プロジェクトによる現地研修及び室内討議を開催しました。

現地研修では、加美町の低コスト林試験地において、農林種苗農業協同組合の太田組合長らコンテナ苗の特徴や生産技術等について説明を受けた後、宮城式植栽器具によるコンテナ苗の植栽を見学しました。

室内討議では、伐採跡地の再造林に向けた取組等について討議を行いました。



太田組合長の説明を聞くプロジェクトのメンバー

宮城式植栽器具によるコンテナ苗の植栽

